新環境基準 適合ラベル

通称:ゴールドラベル

環境基準適合ラベル

＋

環境に優しい3つの追加要件!

新環境基準適合ラベル

車体製品部材のリサイクル可能率 95%以上

車体工業会における環境負荷物質自主取り組み基準を満たしている

Cr Cd Pb Hg

ISO14001やエコアクション21など第3者機関による環境認証取得工場で生産されている

一般社団法人 日本自動車車体工業会
Japan Auto-Body Industries Association Inc.
東京都港区芝大門1丁目1番30号　日本自動車会館15階　TEL(03)3578−1681　FAX(03)3578−1684

日本自動車車体工業会の活動についてはホームページに詳しく掲載しております。
http://www.jabia.or.jp/

生産における環境保全　日本自動車車体工業会では自主行動計画を策定し、関係団体と連携を取りながら積極的な取り組みを進めています。

省エネルギーの推進(地球温暖化対策)　目標 1990年度比25%低減
産業廃棄物最終処分量の低減　目標 2015年度に0.77万トン以下(2000年度比71%減)
VOC(揮発性有機化合物)の排出抑制　目標 2012年度に原単位51g/㎡以下(2000年度比50%減)

サーマルリサイクル、マテリアルリサイクルを推進します!!

Recycle Group

オールマイティにサポートする
(株)リサイクル・リサイクルセンター(株)・(株)ダイテック・唐澤化学工業(株)

優良性評価制度 基準適合事業所

【リサイクルグループの業務内容】
1.特別管理・産業廃棄物収集運搬業務
2.産業廃棄物の再生処理業務(廃油・溶剤の再生、販売)
3.処理再生プラントの製作・販売(洗浄機・回収装置の製造、販売、据付工事)
4.その他工業薬品製造・販売、輸出事業

ISO14001認証取得
ISO9001　認証取得

本　社:〒579-8004 東大阪市布市町2-1-40　TEL(072)980-1390(代)　岡山営業所:〒709-3723 岡山県久米郡美咲町境50-4　TEL(0868)68-0034(代)
関東営業所:〒374-0055 群馬県館林市成島町1165　TEL(0276)72-0200(代)　九州営業所:〒839-0841 福岡県久留米市御井旗崎4-2-35　TEL(0942)41-4007(代)
http://www.recyclegroup.co.jp/

「水俣条約」見据え 進む水銀汚染対策

10月採択 技術開発急ぐ

地球規模の水銀汚染対策のための活動は、およそ7カ月後に一つの節目を迎える。2013年10月9日から11日まで熊本県で予定されている外交会議での「水銀に関する水俣条約」の採択・署名だ。この活動は国連環境計画(UNEP)が01年から取り組んでいる。国内の企業もこれまで水銀の使用禁止や削減などに対応してきた。国内の企業の中にはこの条約に伴う排出規制、保管に備えて、技術開発を進めているところがある。

UNEPでは01年以来、地球規模での水銀対策について議論が行われてきた。03年からは水銀の環境への影響評価など、地球規模での水銀汚染に関連するプログラムをスタート。09年2月のUNEP第25回管理理事会で、水銀が人の健康や環境に及ぼすリスクを低減するため、国際的な水銀の管理に関して法的拘束力のある文書(条約)を制定することが決まった。同時にそのための政府間交渉委員会(INC)を設置して13年までの取りまとめを目指すことが合意された。

そして13年1月13日から18日までスイス・ジュネーブで開催されたINC第5回会合で、水銀に関する条約の条文案が合意され、条約の名称が水銀に関する水俣条約に決定した。併せて10月に条約の採択・署名のための外交会議が熊本市と水俣市で開かれることが正式に決まった。

日本は水銀の汚染による健康被害や環境破壊を引き起こした水俣病の経験を踏まえ、世界各国における水銀汚染対策の強化を進めるべきだとの立場からINCでの議論に参加してきた。今回、条文の前文には水俣病の教訓として、水銀汚染による深刻な影響、水銀の適切な管理の確保の必要性、同様の公害の再発防止が日本の提案で盛り込まれた。

INC第5回会合には約140カ国・地域の政府代表らが参加。条約は50カ国が批准してから90日後に発効する。

環境省、経済産業省などは1月22日にINC第5回会合の結果を発表した。それによると条文案は「前文」「目的」「水銀供給の削減と国際貿易の削減」「製品への水銀使用の削減」「製造プロセスにおける水銀の使用削減」に関する項目がある。さらに「小規模金採掘」「大気への排出、水・土壌への放出」「水銀の環境上適正な一時保管・水銀廃棄物・汚染サイト」「資金・技術支援」「健康面の対策」などがある。

具体的には、鉱山からの水銀産出について、条約発効後の新規鉱山開発は禁止。既存の鉱山からの場合は条約発効から15年後に禁止となる。水銀の貿易については、条約上認められた用途や廃棄処分などを目的とするもの以外を禁止。輸入国の事前同意に関する制度を導入する。

電池、スイッチ・リレー、一定含有量以上の一般照明用蛍光ランプ、血圧計、体温計などは、20年までに製造、輸出、輸入を禁止する。ただし、研究用、校正用、標準用などの用途は除外されるほか、一部製品については補修用や特殊用途のものが適用除外となる。

カセイソーダ製造プロセスでの水銀の使用を25年までに、アセトアルデヒド製造プロセスでの水銀の使用を18年までに禁止する。

人力小規模金採掘については、石炭火力発電所、非鉄金属精錬施設などを対象とし、最適技術や排出基準値の適用などによって排出削減対策を実施。水・土壌への放出については、規制対象となる放出源を各国が特定し、最適技術や放出基準値によって放出削減を行う。

使用済み蛍光ランプ

規制に対応する国内業界

国内の産業界は水銀規制に対応している。

日本電球工業会は省エネルギー製品の開発普及や水銀などの有害化学物質の使用削減を推進。水銀に関する条約の制定に関しても賛成の立場で日本政府への情報提供やINCへのオブザーバー参加などを実施してきたという。

今回の合意では、ランプに関しては、ある一定以上の水銀量を有するものなどについての製造、輸出、輸入を禁止する内容になっている。同工業会会員の製造、販売するランプに関しては、すでに自主的な水銀量削減に取り組んでいることもあり、該当する蛍光ランプについてはほぼ全てのものが規制値以下になっている。このような内容で条約が発効された場合でも、20年以降も、製造、販売が可能とみている。

ただ、一般照明用の高圧水銀ランプについては、水銀封入量に関係なく禁止になるという。

電池工業会によると、電池業界ではこれまで1992年に乾電池の水銀ゼロ化、95年に水銀電池の生産・販売中止などによって環境負荷の軽減に努めてきた。ボタン電池に関しては性能や品質の面から、今なおごく微量の水銀が使用されており、現時点では完全な無水銀化は実現していない。ボタン電池は酸化銀電池、空気亜鉛電池、アルカリボタン電池の3種類がある。水銀をごく微量使用したボタン電池を除くなど、条約の規制内容がポイントとなっている。

そうした中、電池工業会は09年から産業廃棄物の広域認定を取得して、自主的に使用済みボタン電池の回収を行っている。回収協力店に電池回収缶を設置し、そこにたまった使用済みボタン電池を定期的に引き取り、適正に処理している。今後水銀条約制定で、ボタン電池の回収が促進されることを期待している。

日本電気制御機器工業会はスイッチ、リレーについて、11年3月に会員メーカーに確認し、国内生産、国内販売、輸出、輸入の状況をまとめている。それによると、リレーについては国内生産、国内販売などいずれも、ほぼ「ゼロ」とみている。スイッチについては国内生産、国内販売ともに1980年代半ばから水銀不使用。輸出、輸入はない。有害物質規制によって現在では需要がほとんどない状況だという。

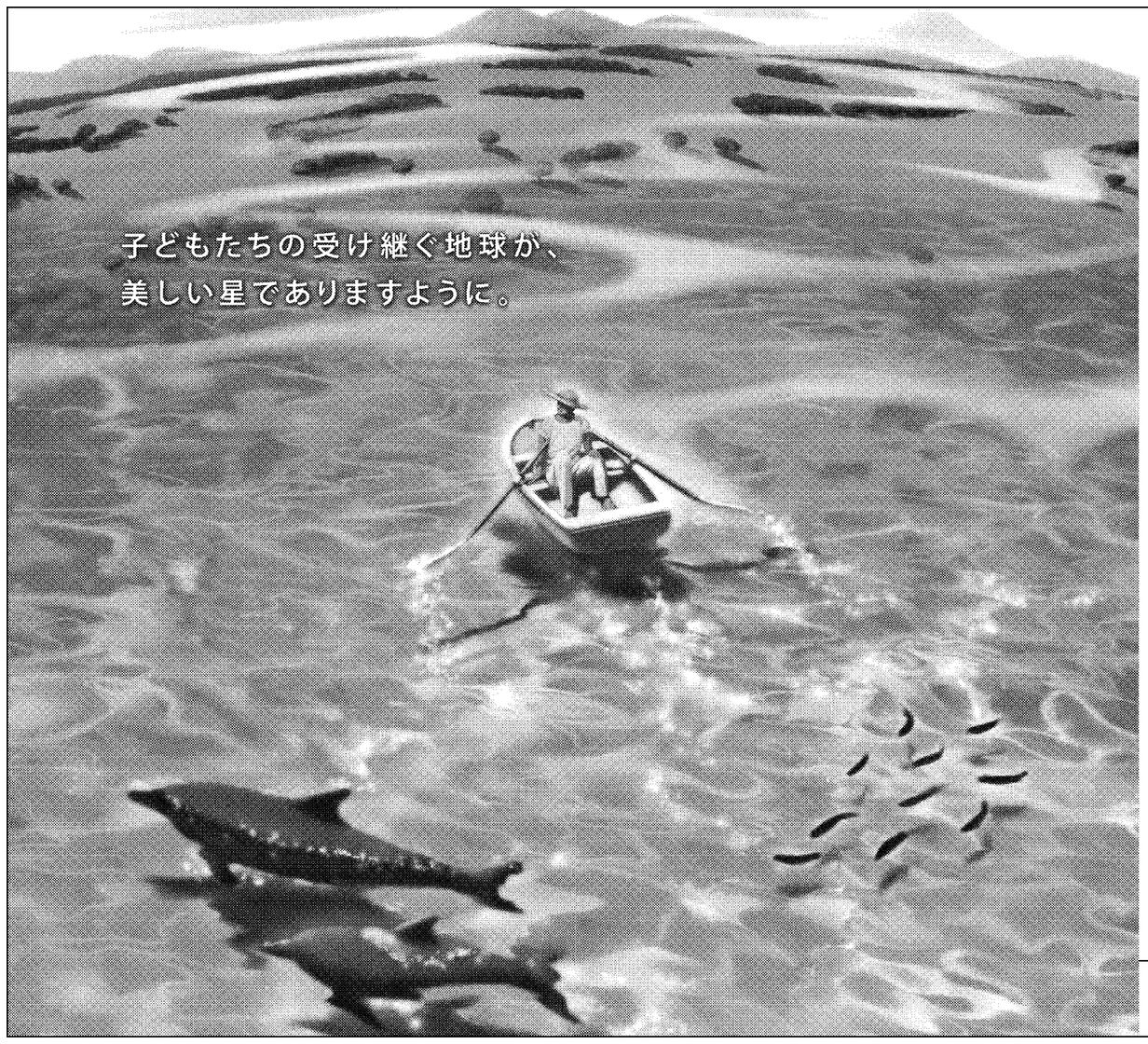
野村興産(東京都中央区)は1973年の創業以来、水銀精錬に関する技術を基盤に、使用済みの乾電池、蛍光灯をはじめとしたさまざまな水銀含有廃棄物の処理、処分、リサイクルを行っている。

同社は水銀に関する条約発効で輸出できなくなり、国内に余ってくる水銀の保管について、長期保管の技術開発を始めている。また、大気への排出規制に備えて、排出ガス中の水銀の除去技術についても、開発を行っている。

ボタン電池回収缶(パリミキ日本橋本店)

■有害物質の排出規制

地球環境



Ecologically Clean
ORGANO

人と地球のために。オルガノは、水がもつ可能性と向き合い、
クリーンで快適な未来を育むお手伝いをしています。

水が活きる。水で変える。オルガノ

プラント事業(水処理装置製造・販売)
超純水・純水製造システム/排水処理システム/有価物回収システム/上下水道関連システム 他

ソリューション事業(納入装置メンテナンス・運転管理)
装置メンテナンス/運転管理/処理水供給/遠隔監視 他

機能商品事業(標準装置/水処理薬品/食品加工材 製造・販売)
標準型水処理装置/機能水製造装置/冷却水処理剤/ボイラ処理剤/食品添加剤 他

オルガノ株式会社　〒136-8631 東京都江東区新砂1丁目2番8号 TEL(03)5635-5100 FAX(03)3699-7030　www.organo.co.jp